

第2回兵庫県公立大学法人評価委員会 議事録

1 日時及び場所

(1) 日時 平成29年7月25日(火) 14:30～16:00

(2) 場所 兵庫県公館 第2会議室

2 出席委員

石川委員長、西門委員、西川委員、藤田委員、牧村委員

3 出席職員

(公立大学法人兵庫県立大学)

太田学長兼副理事長、伊藤副理事長、浅田理事兼副学長、高坂理事兼副学長、内布理事兼副学長、戸田理事兼事務局長、山崎副学長、藤原事務局副局長兼教育企画部長、釜江事務局副局長兼経営企画部長、松岡大学教育改革室長、奥野所社会貢献部長

(兵庫県)

西上企画県民部長、小橋管理局長、法田大学課長、中津大学課副課長

4 内容

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 出席者紹介

(4) 報告事項：環境人間学部コース再編について
法人より資料1に基づき説明

(5) 議事

①平成28年度の取組に対する評価

事務局より資料2について説明

意見交換後、原案どおり了解を得た。

②平成28年度の財務諸表、利益処分の承認について

事務局より資料3について説明

意見交換後、原案どおり了解を得た。

(6) 閉会

5 意見交換の概要(●：委員、○：法人又は事務局)

[H28年度の取組に対する評価]

● 論文について質・量ともに高める取組について、具体的にどのようなことを考えているのか。

- ○ ここ数年、科研費の獲得額が減少傾向にある中、科研費を獲得するためには、査読付きの論文を書いていることが有利となる。大学が科研費を獲得する取組とあわせて、査読に耐えられるような質のある論文を増やすことを考えている。
- 留学生の受入人数の増加につながる取組の強化の具体性は。
 - ○ 日本語ができない留学生でも、英語のみで学位がとれるコースを作り、受入の間口を広げることを考えている。
- 経済・経営学部の再編については大幅に計画から遅れている。他大学が色々な取組をしている中で、事務局からみて率直な印象はどうか。
 - ○ 18歳人口の大幅な減少による大学間競争が激化する状況の中、各大学はそれぞれの特色を打ち出した戦略的広報の展開や社会の要請に応えた新学部を開設するなど、学生を取り込む様々な取組をしている。中期計画策定時に、すでに今後18歳人口が減少していくことは明らかであり、学部・学科再編の重要性は認識していたにもかかわらず、内部の体制が整っていないため、評価委員会でも度々指摘されているように、再編が進んでこなかった。他大学と比較しても出遅れ感は否めない。
- グローバル人材の育成を推進するにあたり、ティーチングアシスタントの活用を考えてほしい。[意見]
- 優秀な留学生を獲得するためには、英語だけで卒業できるコースを開設することは重要である。英語で運用される授業に日本人学生が積極的に参加すれば、日本人学生の語学力向上にもつながる。[意見]
- 県内の産業力強化に向けて県立大学はどういうことができるのか。
 - ○ 一例をあげると、工学系では、先端医工学研究センターの姫路駅サテライトラボを開設し、火薬で薬剤を投入する無針注射器の開発を目指した地元企業との共同研究を実施している。また、将来的には、県立はりま姫路総合医療センター（仮称）への移転を検討しており、最先端の医療機器の開発により、県内産業の裾野が広がっていくことが期待できる。
 - ● 既に取り組んでいる分野であるが、取組として不十分であるということか。
 - ○ COC事業については、国庫補助が終了した後も事業が持続的に続くようにしていく必要がある。また、先端医工学研究センターについても、昨年開設されたところであるので、今後強化をしていく必要がある。

- 文理融合の新学部を作るには、指導力のある人材が必要である。たとえば、AIは理工系の分野であるが、経済・経営学部において「ディープラーニング」を用いて商品の売り上げを伸ばすようなプログラムを作る場合、企業から人材を引き抜いてくるなど、思い切ったことをしなければ大学の看板となるような学部を作ることは難しい。[意見]
- グローバル人材を育成するには、学生が英語に触れる機会を増やすような教育環境を作る必要がある。[意見]